

■プロローグ■

一須賀古墳群は、大阪府の東南部に位置する、河南町と太子町の山間部に広がる古墳群です。

古墳時代の6世紀から7世紀前半にかけて、250基以上もの古墳が築かれた群集墳として知られていて、1994年に国の史跡に指定されました。

調査によって確認された古墳は、A支群からWA支群まで計23の支群に区分されています。

埋葬施設は横穴式石室が多く用いられ、玄室には数基の木棺または石棺が安置されていたことがわかっています。

副葬品では須恵器や土師器が多数出土し、一部の古墳からはミニチュア炊飯具や金属・ガラス製のアクセサリーが出土しました。

横穴式石室の構造や出土品などから、一須賀古墳群は、朝鮮半島からわたってきた渡来人と密接な関係にあることが推定されています。

地域展では、一須賀古墳群の出土品の中から、ミニチュア炊飯具、金属製やガラス製のアクセサリー、釘や鏝（かすがい）をご紹介します。

あわせて、渡来人との関わりが深い葺屋北（しとみやきた）遺跡、藤の森古墳、高井田山（たかいだやま）古墳を取り上げます。

これらの遺跡から出土した資料をもとに、一須賀古墳群の被葬者像を考えてみたいと思います。